「キャンピングカー白書2007」が伝えるユーザーの素顔

「50歳夫婦のふたり旅」が主流

山本馬骨ご夫妻

キャンピングカーユーザーの平均年齢は49.88歳

平均年齢は約50歳。世帯収入は600万円台の後半。そしてその半数の人たちは、夫婦ふたりの「くるま旅」を楽しんでいる。

そんなキャンピングカーユーザー像が、このたび日本RV協会の発行した「キャンピングカー白書2007」から浮かび上がってきた。

このユーザー調査は、日本RV協会が主宰する「くるま旅クラブ」の会員のうち、その1,245人の回答をもとにまとめられたもので、ほぼ平均的なキャンピングカーユーザーの実状を推測するものといっていい。

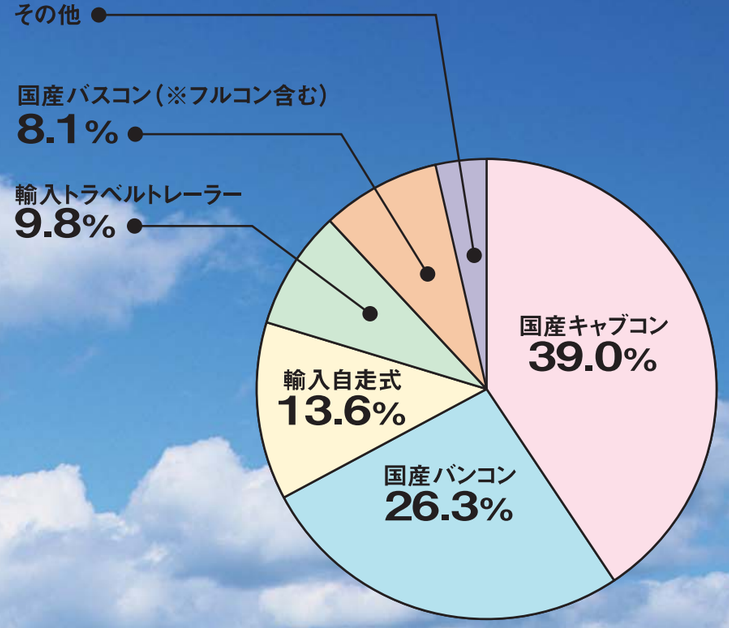
それによると、キャンピングカーユーザーの平均年齢は、テントキャンプを楽しむ人たちの平均年齢より約10歳ほど高い49.88歳。まさに、定年退職後のライフスタイルを思い描きながらキャンピングカーに接している人たちがその中軸を占めていることが分かる。

また、ユーザーの買っているクルマの価格帯としては、400万円台から500万円台のキャンピングカーが多く、その内訳は、国産キャブコンの所有者が39.0%。国産バンコンは26.3%。国産バスコンと国産フルコンは合わせて約8%。つまり全体の7割強が国産ビルダーの製作したキャンピングカーに乗っていることが分かった。

一方、輸入車では、トラベルトレーラーを購入した人がユーザー全体の1割に迫る9.8%を占め、自走式の輸入車を所有している人は、アメリカ製・ヨーロッパ製を含めて、全体の13.6%ということが明らかになった。

■ くるま旅クラブ会員所有車のタイプ別比率

[くるま旅クラブ会員アンケート調べ]



COLUMN 山本さんが教える長距離旅行のコツ

●「くるま旅」では、毎日の生活環境が変わるので、疲れているのに眠れないということがよくある。しかしそれを気にしていても始まらない。「眠くなったら寝る。眠くないときは寝ない」。そう思って悠然と構えていればいい。快眠は、眠くない状態では決して実現できない。だから、逆に眠くなったときは、道の駅や高速道路のサービスエリアなどを利用して、昼間でも短い仮眠を取る。そのようなリズムを身につけることが、長距離のキャンピングカーライフを円滑にこなす力となる。

●旅に出ると、解放感も手伝い、つい美食・飽食に傾きがちである。しかし、グルメ旅行は、長期のくるま旅では避けた方が望ましい。健康と予算に狂いが生じがちになるからだ。特にコレステロールや中性脂肪に関して注意を受けている人は要注意。健康に留意して、最低でも1日1食は自分で調理して食べるようにしたい。

●熟年夫婦の「くるま旅」を上手に続けるコツは、いつも一緒に行動するなどという形でお互いを縛らないことを心がけることが肝要。同じ観光地に行っても、時には夫婦で見たいものが異なる場合もある。また、片方は疲れてクルマの中で休んでいたいときもある。その場合は、思い切って、夫婦が別な行動を楽しむことも必要だ。お互いが自由に楽しむ時間を尊重しあうことが、かえって長旅をストレスなく続けられる秘訣となる。

シニア夫婦のくるま旅を実践し、その楽しさとノウハウをまとめた山本馬骨さんの著作。日本RV協会の推薦図書にもなっている。

山本馬骨・著
『くるま旅くらし心得帖』新風舎 1575円

多くのユーザーが、キャンピングカーで自由をGet!

ユーザーたちの購買動機を調べてみると、何といっても目立ったのは「家族との触れ合いを求めて」という回答。その数は「趣味を生かすため」「テントキャンプからのステップアップ」という答を抜いて、全体の5割を占めた。

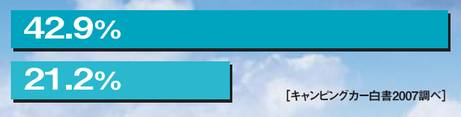
そして、回答者の7割以上の人が、「キャンピングカーを買ったことによって家族共通の話題が増え、団らんの時間が増えた」ことを指摘している。

さらに、旅行のスタイルが大きく変化し、天候を気にすることなく「出発時間や目的地を気楽に決められるようになった」（42.9%）、「温泉や観光施設をめぐるのが楽しくなった」（21.2%）と答えているように、キャンピングカーが“旅行”のイメージを「気楽で自由」なものに変えた様子が伝わってくる。

ユーザーが将来に叶えてみたい夢としては、「気に入ったところでのんびり滞在したい」と答えた人が全体の6割を超え、63.4%に達した。

そのほかの答として、「日本一周旅行」「自分で使い勝手のよいように改造する」などという声もあがっているが、なかには「世界一周」「大陸でのキャンプ」など、キャンピングカー旅行に大きな夢を抱いている人が存在していることも分かった。

■ キャンピングカーを買って良かったこと



［キャンピングカー白書2007調べ］

「ふたり旅」を楽しむ人が半数

今回の白書で浮かび上がったのは、キャンプ場でアウトドアを楽しむテントキャンパーたちとキャンピングカーユーザーでは、その家族構成が異なるということだった。

（社）日本オート・キャンプ協会の発行する「オートキャンプ白書2006」によると、テントキャンプ中心に楽しんでいる人たちの場合は、キャンプの同行者として誰を選ぶかという問いに対して、「子供を連れた家族」と答えた人が72.1%と圧倒的な多数を示し、それに対し「夫婦だけ」と答えた人は13.6%にとどまった。

一方、キャンピングカーユーザーの場合は、「夫婦2人」と答えた人が48.8%を占め、「子供を含めた家族」（44.9%）という答を3.9ポイント上回った。そして全体の約4割のユーザーが、ペットと一緒に旅行を楽しんでいることも判明した。

このことから、キャンピングカーユーザーはファミリー層から、子供の代わりにペットを連れたシニアカップル層へと移行していることが読みとれる。

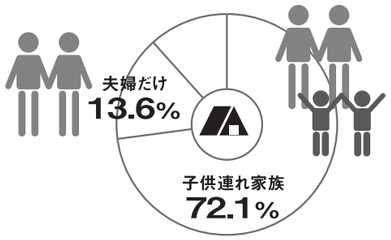
では、多くのキャンピングカーユーザーはどんな旅行を楽しんでいるのか。

まず、宿泊場所としては、2割強の人が、可能な限りキャンプ場に泊まると答えている。キャンプ場は、ほとんどの施設でAC電源、給水設備、シャワー（風呂）設備などを完備しており、セキュリティも保証されている。そのため、ユーザーが最も安心して泊まれる施設として認知されているようだ。

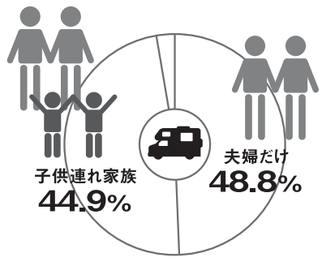
また、日本RV協会が提唱する「湯YOUパーク」（提携ホテルや提携旅館の駐車場）を利用している人も5.2%ほど存在した。

しかし、旅行のスケジュール調整が整わない場合は、道の駅や高速道路のサービスエリアなどで短い時間の仮眠・休息をとっている人たちもおり、各ユーザーが臨機応変に休息場所を使い分けている様子がうかがえる。

■ キャンプ同行者割合



テントキャンプを中心とする人達の同行者割合



キャンピングカー利用者の同行者割合

旅行予算は1日1万707円

また、キャンピングカーを年にどのくらい利用しているかという問いでは、「20回以上」と答えた人が最も多く、その比率は全体の23.0%だった。「日常の足」として通勤や買い物に常時使用している人も17.7%いることから、ユーザーの4割はかなり頻繁にキャンピングカーを使用していることが分かった。

ちなみに、キャンピングカーユーザーの年間利用回数を平均すると、15～16回という計算になった。

1回のキャンピングカー旅行で何泊するかという問いには、いちばん多い回答が2泊3日で全体の47.7%だった。続いて多いのは1泊2日の27.1%だった。

平均すると2.3泊になり、まだまだ欧米なみの長距離旅行からはかけ離れている現状をうかがわせた。

しかし、定年退職を迎えて、自由に旅行する時間数を確保できるシニアユーザー層が増加することが見込まれる今年以降は、キャンピングカー旅行の宿泊数がさらに伸びることが予想される。

また、家族でキャンピングカー旅行をした場合、1日あたりの総予算としてどれくらい使うかを調べたところ、1日平均1万707円という金額になった。1家族のメンバーを仮に4人と仮定すると、1人あたりの1日の出費は約2,677円。ホテルや旅館に宿泊する旅行と比べると、キャンピングカー利用者がいかに経済的な旅行を実現しているかが分かる。

「キャンピングカー白書2007」が伝えるユーザーの素顔

「50歳夫婦のふたり旅」が主流